

国宝修理装演師連盟加盟工房における技術と材料

(その2：修理材料編)

—安全で的確な修理技術の提供について—

国宝修理装演師連盟 岡 岩太郎・○坂田 雅之・岡 泰央

1 ■はじめに

本編では、前編の「修理技術編」に引き続き、文化財修理において安全で的確な修理技術を提供するための、修理材料選択に関する指針を明らかにする。

本研究発表では、文化財修理に使用している材料及びその選択基準について、各加盟工房を対象に実施したアンケートもとに、共通する項目を指針として取りまとめた。さらに、これらを生産・供給している製造者等への聞き取りを通じ、文化財修理の材料として選択されるべき必然性を明らかにした。その主なものは下記のとおりである。

2 ■文化財修理における材料選択に関する指針

(1) 裏打紙 (掛軸装)

	繊維	煮熟材	乾燥	填料	特徴及び選択基準	備考
肌裏紙	楮(国産)	天然系木灰汁	板干	無	繊維の叩解度が均一で、本紙を支持するに十分な強度があること 薬剤処理された繊維を含まないこと 塵等の不純物が少ないこと	美濃紙
増裏紙 中裏紙	楮(国産)	天然系木灰汁	板干	炭酸カルシウム等(胡粉)	楮繊維を煮熟後、圧搾による脱水を行わずに板干を行っていること	美栖紙
総裏紙	楮(国産)	天然系木灰汁	板干	炭酸カルシウム等(白土)	天日板干とする 白土は吉野産	宇陀紙

(2) 接着剤

工程	材料	特徴及び選択基準	備考
増裏打, 中裏打, 総裏打以外	糊	小麦澱粉を用いて作成 不純物, 添加物及び防腐剤の混入のないこと	
増裏打, 中裏打, 総裏打		小麦澱粉を用いて作成した糊を約10年冷暗所にて保管したもの	
本紙絵具層の 強化, 接着	膠	不純物, 添加物及び防腐剤の混入のないこと	

本紙絵具層の強化、接着	セルロース誘導体 (ヒドロキシプロピルセルロース、メチルセルロース)	接着の度合い、施工環境等に応じて、発注者との協議により使用することがある。但し、可逆性のあるものに限る	
本紙の表打	布海苔	不純物、添加物及び防腐剤の混入のないこと	常温による抽出液を使用

(3) 表装裂地

表装裂地を新調する場合は、手織、金欄は本金糸を用いたものとし、経年によって本紙の劣化が促進される素材及び染色・媒染の方法が用いられていないこと。

(4) 木工

	材料（産地）	仕様	特徴及び選択基準
掛軸保存箱	桐（会津または北米） 国宝・重文は会津産	白太無節乾燥材	目の詰まったもので、10年以上の枯らし期間があるものが望ましい 文化財の内容に応じた伝統的な箱の様式を選択すること
下地	杉（吉野または秋田）	白太無節乾燥材 総柄組隔止	本紙画面の平面性を確保でき、温湿度等による影響が少ないこと 竹釘等を使用していないこと
襲木	杉（吉野） 檜（木曽、吉野）	白太無節乾燥剤	変形の少ないこと 漆塗は本漆塗、堅地仕上とする。

3 ■ 伝統的材料の供給体制と選択必然性について

各加盟工房が指摘した材料の選択理由として、上記のほか「天然素材を使用し、製作技術が伝統的であるため安心して使用できる」「生産体制の確認等を通じ、常に製造者の顔が見える」という回答が多数を占めている。

文化財修理を支える伝統的材料の多くは、その製法が国の選定保存技術に認定されていることが多い。このことは、製作技術そのものが卓越しているのみならず、その製品ができあがるまでの様々に細分化された工程の一つ一つが、伝統的な我が国の文化を支えていくのに不可欠なものであることを意味する。その一方で、かつては安定して供給されていた材料が、生活様式の変化により急激にその需要が失われ、生産者の高齢化や後継者不足も相まって、供給体制の急速な先細りが懸念されている。このような状況下で文化財修理事業に競争原理が導入されれば、安価な代替工業生産品へのシフトが進み、いずれ伝統的材料の供給が立ち行かなくなる懸念がある。

文化財修理における使用材料は、物質的に安全なものを選択するのはもちろんのこと、伝統的材料の生産技術や形そのものを貴重な文化として維持していく意味においても、その継続的な採用が必要不可欠である。連盟では、使用材料に関する明確な指針の整備を通じ、将来にわたって我が国の文化財修理の水準を維持する取り組みを、今後ともさらに強化していく所存である。